

めざす児童像

かしこく……めあてをもち、すすんで学ぶ子ども
やさしく……優しく思いやりがあり、感謝できる子ども
すこやかに……元気で、くじけず、やり抜く子ども

URL <http://www.kizu.ed.jp/kunimidai-es/>

読書のか 正しい書き手に育つために

体育参観ありがとうございました。今年は、運動会が開催できませんでしたが、今回の発表に向けて、子ども達は、感動を届けようと日々粘り強く練習に取り組んできました。この発表を通して、やり終えた充実感と、みんなと気持ちや動きを一つに合わせる心地よさを実感できたと思います。

さて、SNSを使って、「書く」ことで言葉を発信することが、日常的になってきています。これからの社会では、インターネットを通して「書く」ことで情報を発信することが、基本的スキルになってくると言われています。

一方で、自分のことを棚上げにし、他人への誹謗・中傷によるSNSを使った痛ましい事件も起こっています。問題は、事実かどうかの検証や深い考えもなく、その時に思いつくまま書いて発信してしまっていることです。言葉の内容を、受け手がどう感じるかといった考えや想像が伴っていないことが大きな問題です。

では、どうすれば読み手のことを思いやる正しい書き手としての発信者になることができるのでしょうか。

人を思いやる心は、集団生活の中で多くの人と関わる中でも身につくと思いますが、正しく言葉を使えるようになるためには、「読む」こと（読書）が大きな役割を担っています。

名著と呼ばれる本では、作者が選び抜いた一つ一つの言葉に、多くの人々が想像力を刺激され、独自の世界に誘われ、その世界に浸ることで心が大きく揺り動かされます。吟味された言葉には、人の心を動かす力があります。

読書にとって大切なのは、心を動かされた言葉を大切にすることだと思います。読書で得た想像力や言葉の力によって、思慮深い言葉が使えるようになるのではないのでしょうか。子ども達には、「読書」を通して心情を豊かにし、読み手の気持ちを想像できる正しい書き手・発信者になってほしいと思います。

「読書の秋」です。秋の夜長に、短い絵本でも一冊家族で読み合って、何かを感じた言葉を交流するのもいいのではないのでしょうか？

校長 久保 嘉章

体育参観

子ども達の成長を感じた体育参観でした。その時の様子を紹介します。



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生



6年生



お知らせ



「書き損じはがきの回収」

京都府PTA協議会では、活動の充実のため「書き損じハガキ」の回収活動を実施しています。回収活動により得られる収益は、京都府PTA連絡協議会の活動費となります。

本校でも、この活動を支援すべく回収活動を実施いたします。ご自宅でご提供頂ける「書き損じはがき」がございましたら、担任までよろしく申し上げます。

なお、京都府PTA協議会からの依頼文は、州見台小学校ホームページにのせてありますので、ご覧ください。また、はがきの「回収用の封筒」が必要な場合は、学校までお知らせください。

